

分析レポート

学生委員の動機とモチベーションを探る

—大学生協の学生委員意識調査、結果報告—

研究員 小塚 和行

【概要】

現在、全国の大学生協（206生協）で約10,000人の学生が、生協の活動（以下、学生委員会活動）に参加している。学生自治会活動に参加する人数と比較すると、学生委員会に参加する学生数は圧倒的に多い。学生たちは、一体なぜ学生委員会活動に参加しているのだろうか。

学生委員会活動への参加動機やモチベーションなどを把握することは、第一に学生委員会活動が、参加している学生たちの学生生活の充実と成長にどのように関わっているのかを明らかにし、第二に学生組合員の中に大学生協の理解や共感を広げていく上でも、大きな意義があると考えられる。

以上の問題意識より、10大学生協の学生委員に協力を呼びかけ、2017年8月から10月にかけてWebアンケート調査を実施した。主な調査結果は下記の3点である。

- 1) 学生委員になった動機は、1位が「新入生歓迎会など、入学時の先輩の活動の様子を見て、やってみようと思ったから」で、2位は同じ入学時の活動だが「受験生相談、合格者説明会、サポートセンターなどでの、先輩の活動を見て」だった。動機はこの2つに集中していた。やりがいを感じる活動については、7割の学生が「新学期の活動」を選んだ。
- 2) 学生委員会活動をやっていてやりがいを感じるのは、「みんなで協力したり、気持ちが一つになった時」「活動を通じて、他の学生（組合員）から、喜ばれたり感謝されたりした時」「目標を達成した時」で、こうしたやりがいが活動を継続していくモチベーションになっていると考えられる。
- 3) 活動での悩みは、学生委員会活動と「勉強との両立」「アルバイトとの両立」という時間の問題と、「学生委員会内の人間関係や協力関係」の問題の2つに集中していた。

1. 調査概要

本調査は10大学生協の学生委員に協力を呼び掛け、web上のアンケートページにアクセスしてもらい、回答を得る形式となっている。実施時期は2017年8月29日～10月10日であり、最終的な回答数は461回答であった（参考までに10大学生協の学生委員の総数は1,100名程度）。

回答者の学年構成は1年生が54.7%、2年生が30.8%、3年生が13.0%、4年生が1.5%となり、1年生のデータが過半数を占める。男女比は男性49.9%、女性50.1%とほぼ同数となった。住居については、自宅から通う割合が48.2%、下宿が48.6%、寮が1.3%、その他が2.0%となった。アルバイト・仕事をしている学生が81.3%とかなりの割合を占める。

2. 学生委員になった動機・やりがい

- ① 学生委員になった動機は、1位が「新入生歓迎会など、入学時の先輩の活動の様子を見て、やってみてみたいと思ったから」で55.7%が選んでいる。2位は同じ入学時の活動だが「受験生相談、合格者説明会、サポートセンターなどでの、先輩の活動を見て」で、42.1%の学生が選んだ。動機はこの2つに集中している。自分が大学に入学した時に会った先輩の活動の様子が、自分もやってみてみたいと思わせるような魅力を感じさせるものに映っているようだ（図1）。
- ② 学生委員会の活動をしていて「やりがいを感じたり、うれしいと思った時」は、1位が「みんなで協力したり、気持ちが一つになったりした時」（47.1%）、2位は「活動を通じて、他の学生（組合員）から、喜ばれたり感謝されたりした時」（41.2%）、3位は「目標を達成した時」（33.4%）、4位が「取り組みを通じて、自分が成長できた時」（32.8%）となっている（図2）。
- ③ やりがいを感じる活動は、1位が「新学期活動」（72.5%）、2位が「店舗の活動」（24.3%）、3位が「健康と安全の活動」（20.0%）となっており、「新学期活動」がダントツのトップとなった¹⁾。

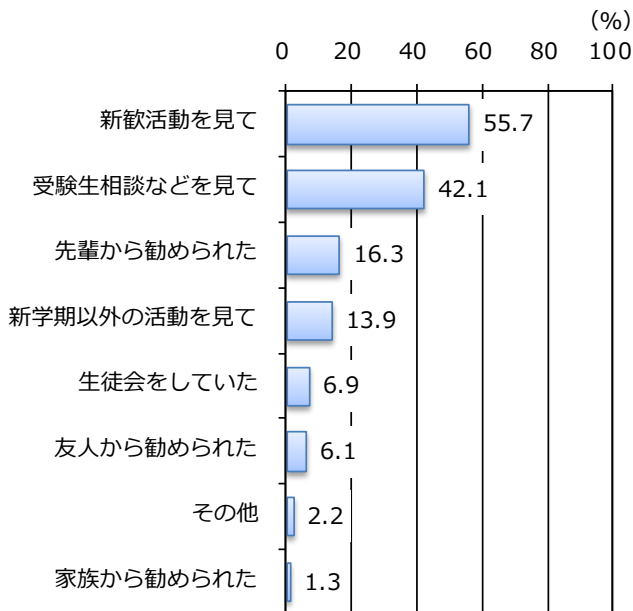


図1 学生委員となった動機（複数回答）

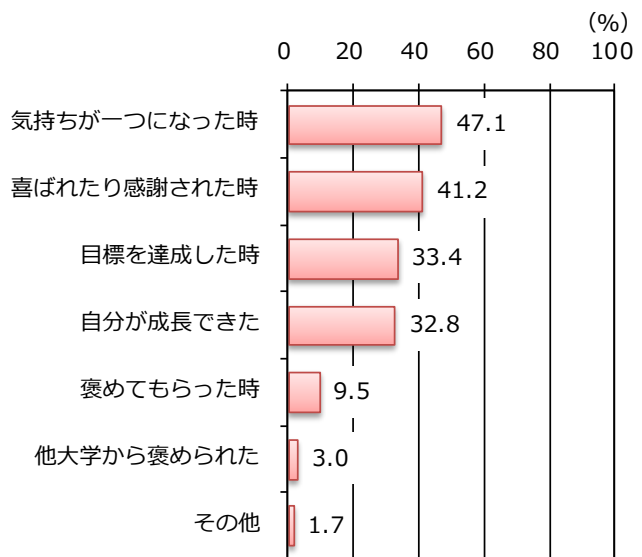


図2 やりがい、うれしいと思った時（複数回答）

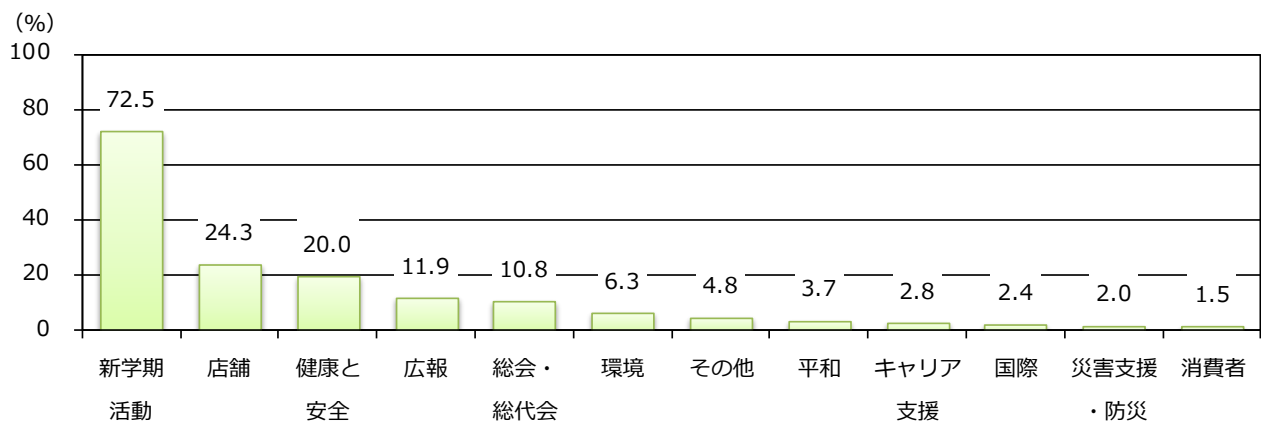


図3 やりがいを感じる活動（複数回答）

3. 学生委員会活動をしていて悩んでいること

- ①学生委員会の活動をしていて、今悩んでいることは、1位が「勉強との両立」(29.5%)、2位が「アルバイトとの両立」(27.5%)、3位が「学生委員会内の人間関係や協力関係」(26.9%)だった。「特に、悩みはない」と回答した人は、19.7%。
- ②悩みの相談相手では、1位が「学生委員会の仲間」(70.3%)、2位は「学生委員会以外の友人」で(29.1%)となっている。

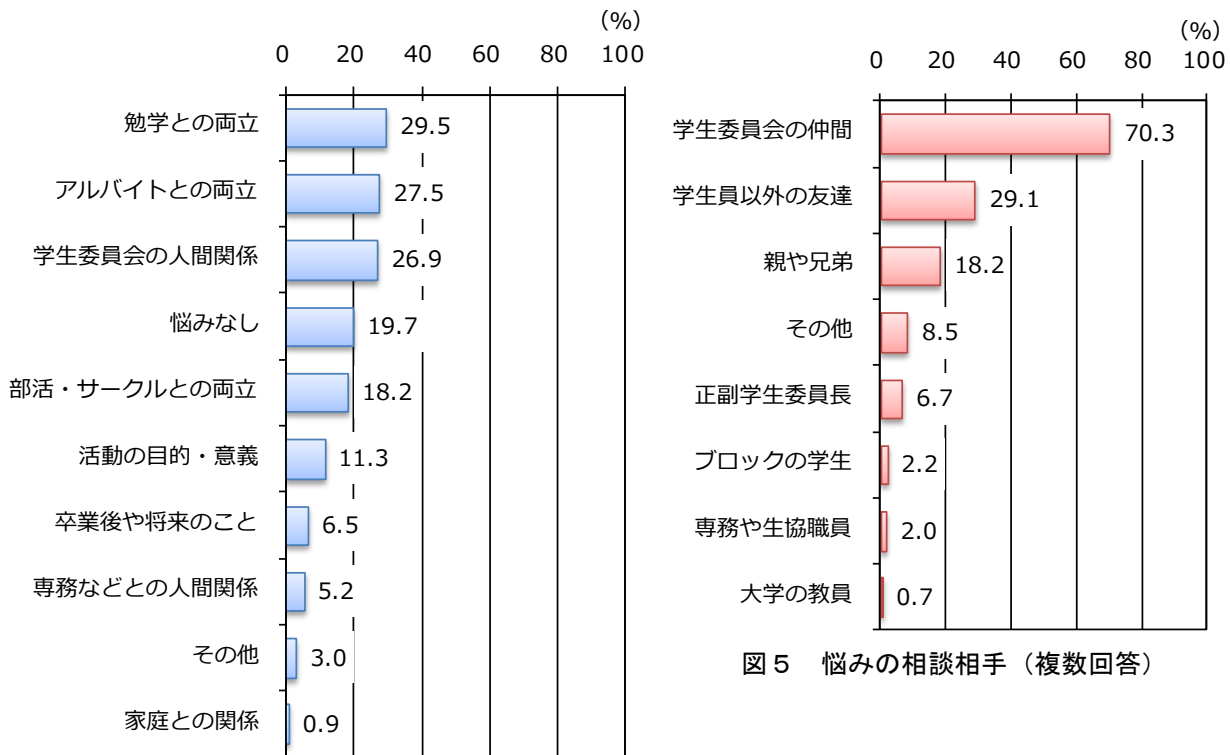


図4 悩んでいること (複数回答)

図5 悩みの相談相手 (複数回答)

3. 学生委員会の活動をやって発見したこと、学んだこと、身についたと思うこと

「学生委員会の活動をやって発見したこと、学んだこと、身についたと思うこと」を自由記入で回答してもらった。共通しているキーワードから、多いものを挙げてみると以下の通りであった。学生委員会の活動を通じて、学生たちが様々な体験をし、その中で様々な能力を身につけたり学んだりしていることがわかる。

- ①「みんなで協力して作り上げていくことの大切さ、大変さがわかった」「企画を作る、考える、実行していくなどの力がついた、大変さがわかった」
- ②「人前で話せるようになった、自分の意見を言うことに自信が持てた」「コミュニケーション能力やプレゼンテーション力が身についた」
- ③「情報の共有や議論をすること、いろいろな意見を聴くこと、自分の考えをわかってもらうこと、人との関わり方などを学んだ」
- ④「多面的なものの見方、広い視野を持つ、全体を俯瞰するなどができるようになった」
- ⑤「自分の行動に責任を持つこと、自発的・自主的に行動すること、何事にも挑戦することの大切さを学んだ」「積極性、現場での適応力、社会性などが身についた」

4. まとめ：本調査について

- ①大学生協の学生委員の意識調査はこれまで実施したことがなく、大学生協の活動への参加動機やモチベーションがデータによって初めて確認できた。受験生や新入生を、先輩の学生たちが親身に丁寧に迎える新学期活動は、大学生協の組織基盤を広げ、大学生協への信頼や親近感を増すことにつながっていると考えられる。
- ②今回の回答者の半数が1年であった。学年が上がること、生協の活動経験年数が増すことにより、活動のやりがいや生協への理解がどのように変化していくかを見ていくことが今後大事だと考えられる。また、初めての調査として全国10大学生協での先行実施となった。実施生協を増やすことにより、大学生協間の比較研究も有意義だと考える。その意味で、この調査を継続して実施していきたい。

【注】

- 1) 大学生協の新学期活動（受験生・新入生の応援サイト）は、<https://www.univcoop.or.jp/fresh/index.html>を参照。

本件に関するお問い合わせは、当研究所研究員 小塚和行までお願いいたします。

また、「調査結果の詳細報告」の閲覧を希望される方も、下記メールアドレスにて連絡ください。

Tel : 03-5216-6025

Mail : kazuyuki.kozuka@jccu.coop

- ・本資料は個人の見解を示したものであり、研究所の見解を代表するものではありません。
- ・本資料は作成時点で当研究所が一般に信頼できると思われた情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性および完全性を保障するものではありません。
- ・内容につきましては、社会情勢の変化等を踏まえて、変更される場合があります。